

# 情報

## 中学校・高校



中学校・高校

総合

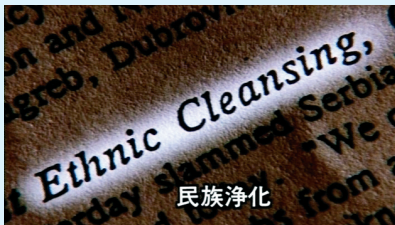
情報

NHKスペシャル  49分

# 民族浄化 ～ユーゴ・情報戦の内幕～

(2000年放送)

### この番組の良さ



#### 紛争の裏側にあるものを知る

過去、多くの民族紛争や国際紛争が起こりました。番組では1992年に旧ユーゴスラビアで勃発したボスニア紛争の裏側で紛争当事者双方が国際世論を味方につけるためにどのような情報戦を繰り広げたかの一端が示されています。

#### 情報コンサルティング企業（PR企業）の働きを知る

番組ではアメリカのあるPR企業が登場し、この会社がボスニア側の情報戦を有利に展開していったことが示されています。国際世論が、紛争当事者の一方の側を支持する流れができるのは、裏でこのような会社が活躍しているからかも知れません。

#### 情報操作の危険性を知る

マスメディアを巧妙に利用すれば「一国の行く末をも左右することにもなりうる」ということが伝わってきます。

### 番組活用のポイント

#### 視聴に先立って

現代の情報社会では、インターネットや各種メディアを介して世界中の様々な情報を得ることもできますが、それらは、発信者によって意図的に構成された情報である危険性もあります。番組では、ボスニア紛争において、メディアを活用した情報戦がどのように作用したかの一例が示されます。視聴に先立って旧ユーゴスラビアの位置や簡単な歴史の説明が必要です。また、番組で使われるキーワードを整理し、登場する主要人物のリストを用意しておくことにより効果的に視聴できます。

#### メディアを活用した情報戦

アメリカの人々は当初、ボスニアに対して特に興味を抱いていなかったことが示されます。しかし、PR企業がマスメディアを通じて「民族浄化」や「強制収容所」というキーワードを浸透させながら繰り返した情報戦により、アメリカ世論はボスニアで行われている紛争に関心を示し、ボスニア支持へと傾いていきます。どのようにメディアを活用して世論形成をしていくのかを押さえることが大きなポイントとなります。

#### メディアリテラシーの意識を高める

紛争終結後の裁判で明らかになったイスラム系住民のセルビア人に対する人権侵害行為。紛争当時このことを、知ることをできずに、結果として偏った報道をした記者たちの想いが番組終盤で映し出されています。これらの言葉から一方の情報だけでなく双方の情報を分析し、批判的（クリティカル）な目で見ることの大切さを学べます。

さらに過去の紛争の中から類似例（湾岸戦争・イラク戦争・天安門事件など）を調べさせることにより理解が深まります。

(井上 勝)

学習展開例

授業時間 100分 2単位時間目安

# 情報戦が歴史を変える 情報を批判的に見る目を養おう



時間配分	学習活動	教師の支援
25分	<p>①番組を視聴する。</p>  <p><b>視聴</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・シライジッチ外相はベーカー国務長官を訪ね、米政府に何か行動を起こすよう訴えた。(開始～16分27秒)</li> </ul> <p>・シライジッチ外務大臣の訪米目的とベーカー国務長官のアドバイスをノートにまとめる。</p>	<p>○視聴前に旧ユーゴスラビアの概略を説明するとともに地図を提示する。</p>  <ul style="list-style-type: none"> <li>・旧ユーゴスラビア(ユーゴスラビア社会主義連邦共和国)は6つの共和国からなっていた。</li> </ul>
10分	<p>②「民族浄化 (ethnic cleansing)」という言葉の意味を考える。</p>	<p>○「ホロコースト (holocaust)」という言葉の意味を解説し、「民族浄化 (ethnic cleansing)」との違いを明確にさせる。</p>
25分	<p>③番組の続きを視聴する。</p>   <ul style="list-style-type: none"> <li>・ブッシュ大統領からの手紙のなかには「セルビア孤立化政策を推し進めていきます。」と記されていた。</li> <li>・やせた男が鉄条網の向こう側に…この画像にアメリカ世論は沸騰した。(16分27秒～32分14秒)</li> </ul> <p>・世論がボスニア支援に傾いていく経緯とそれに対するセルビア側の行動をノートにまとめる。</p>	<p>○PR企業の戦略を把握させ、マスメディアの持つ力を考えさせる。</p> <p>○「強制収容所」という言葉の言外にあるイメージを補足説明する。</p>
30分	<p>④番組の続きを視聴する。</p>   <ul style="list-style-type: none"> <li>・「紛争当事者のどちら側にもPR企業が必要」と述べるジェームス・ハーフ氏。</li> <li>・ボスニア紛争でどのような非人道的行為が行われたのか。戦争犯罪法廷の場で明らかになった。(32分14秒～終わり)</li> </ul> <p>・紛争終結後戦争犯罪法廷の場で明らかになったことをノートにまとめる。</p>	<p>○登場人物の言葉に注目させ、要点を板書する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「私の国では『泣かない赤ちゃんはミルクをもらえない』というのがあります。」 &lt;シライジッチ外務大臣&gt;</li> <li>・「国際的な民族紛争の分野において情報コンサルタント企業の手法が極めて有効なことを示した。」 &lt;ハーフ氏のシルバーアンビル賞受賞理由&gt;</li> <li>・「メディアがここまで発達した今日、紛争当事者が自分の国の現状をワシントンでジャーナリストや政治家に訴えるためには私たちのようなプロの力が必要になってくる。」 &lt;ハーフ氏&gt;</li> <li>・「情報コンサルタント企業は紛争の早い段階で黒と白のイメージを世論に植えつける効果がありました。」 &lt;ポジオリ記者&gt;</li> <li>・「バランスを保つのは非常に困難でした。」 &lt;ホーン氏&gt;</li> </ul>
10分	<p>⑤取材した情報を伝えるマスメディアの責任および情報の受け手としての責任を考え、ノートにまとめる。</p>	<p>○情報操作の危険性を考えさせるとともに情報を見極める目を養うことの重要性を考えさせる。</p>